

## 第8回みえ県民意識調査の集計結果 ～県民の皆さんの幸福実感を調査しました～

県では、「みえ県民カビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に毎年「みえ県民意識調査」を実施しています。

今回、平成31年1月から2月にかけて実施した「第8回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

### I 調査の概要等

- 1 調査期間 平成31年1月～2月
- 2 調査方法 県内に居住する18歳以上の10,000人に対する郵送アンケート
- 3 有効回答数 5,044人（有効回答率 50.4%）

#### 4 調査項目

- ・ 幸福感
- ・ 地域や社会の状況についての実感
- ・ 県民指標に関すること
- ・ 地域活動への参加状況に関すること
- ・ ご家族に関すること
- ・ 人とのつながりに関すること

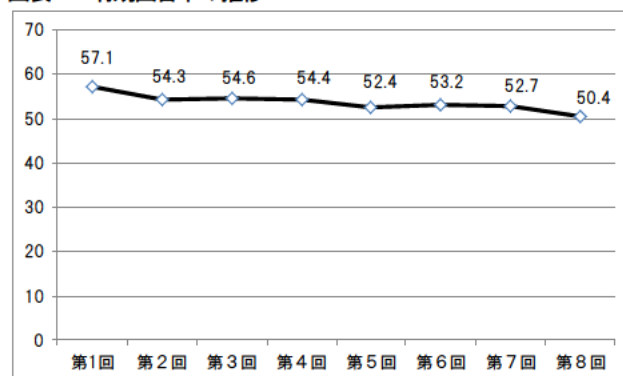
#### 5 その他

第8回みえ県民意識調査の集計結果をまとめた報告書は、6月6日から県ホームページでご覧いただけます。また、令和元年6月下旬に県庁や各県庁舎（地域防災総合事務所、地域活性化局等）に配置する予定です。

[URL](http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/) <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/> （「みえ意識」で検索）

今後、集計結果をもとに戦略企画部において分析する予定です。

図表1 有効回答率の推移



## II 集計結果（概要）

### 1 幸福感

報告書 5～7頁

#### (1) 日ごろ感じている幸福感

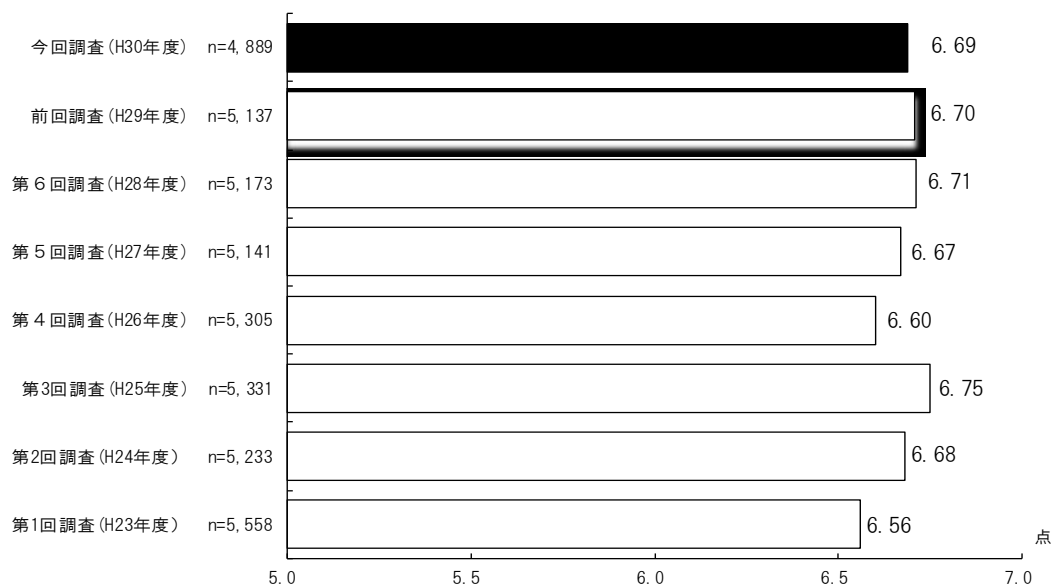
**問1-1** 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

※第1回調査から継続して質問しています

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、平均値は6.69点で、第1回調査より0.13点高く、前回調査より0.01点低くなっています。

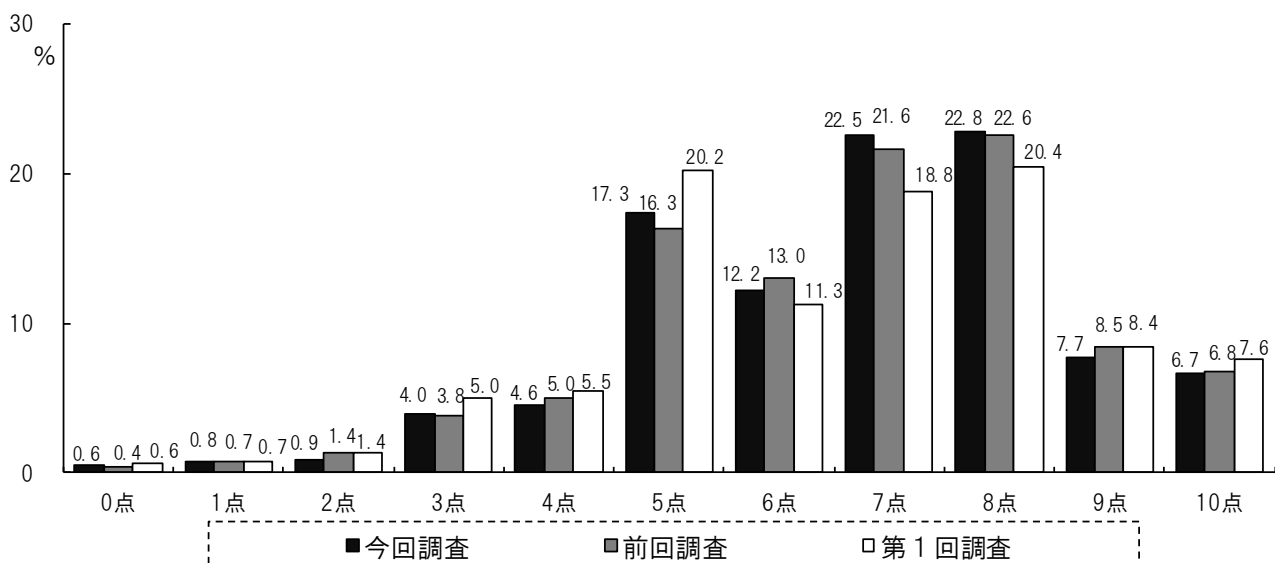
点数の分布をみると、「8点」の割合が22.8%と最も高く、次いで「7点」が22.5%と「5点」が17.3%となっており、M字型となっています。

図表2 日ごろ感じている幸福感の平均値

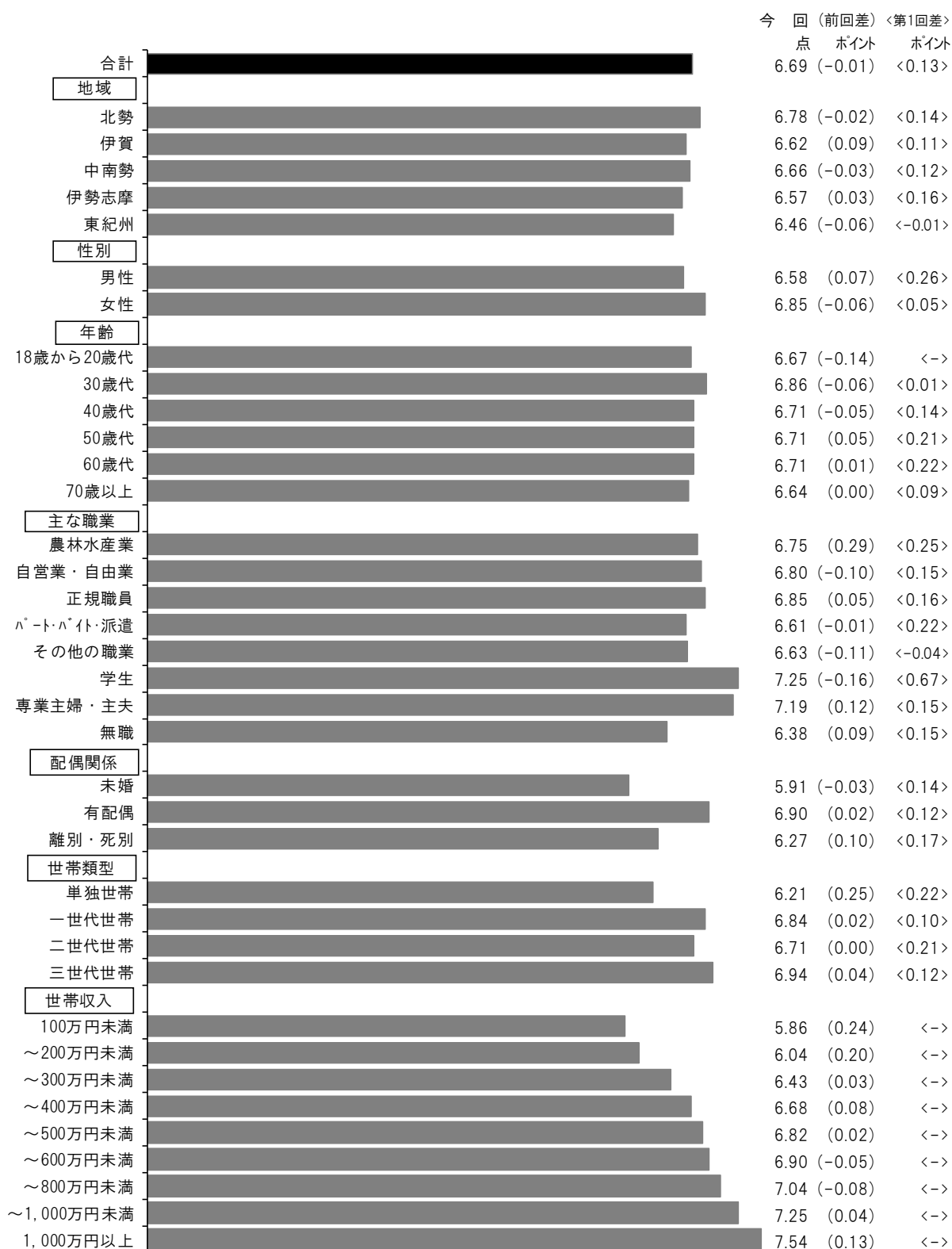


※ これまでの調査で幸福感が最も高かったのは第3回調査の6.75点で、今回調査は過去4番目の高さとなっています。

図表3 日ごろ感じている幸福感の分布



図表4 日ごろ感じている幸福感の平均値(属性項目別)



※年齢の18歳から20歳代については、第6回調査からの調査項目であるため、第1回調査と比較を行っていません。

※世帯収入については、第1回調査と収入区分が同一でないことから、比較を行っていません。

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

問1-2 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

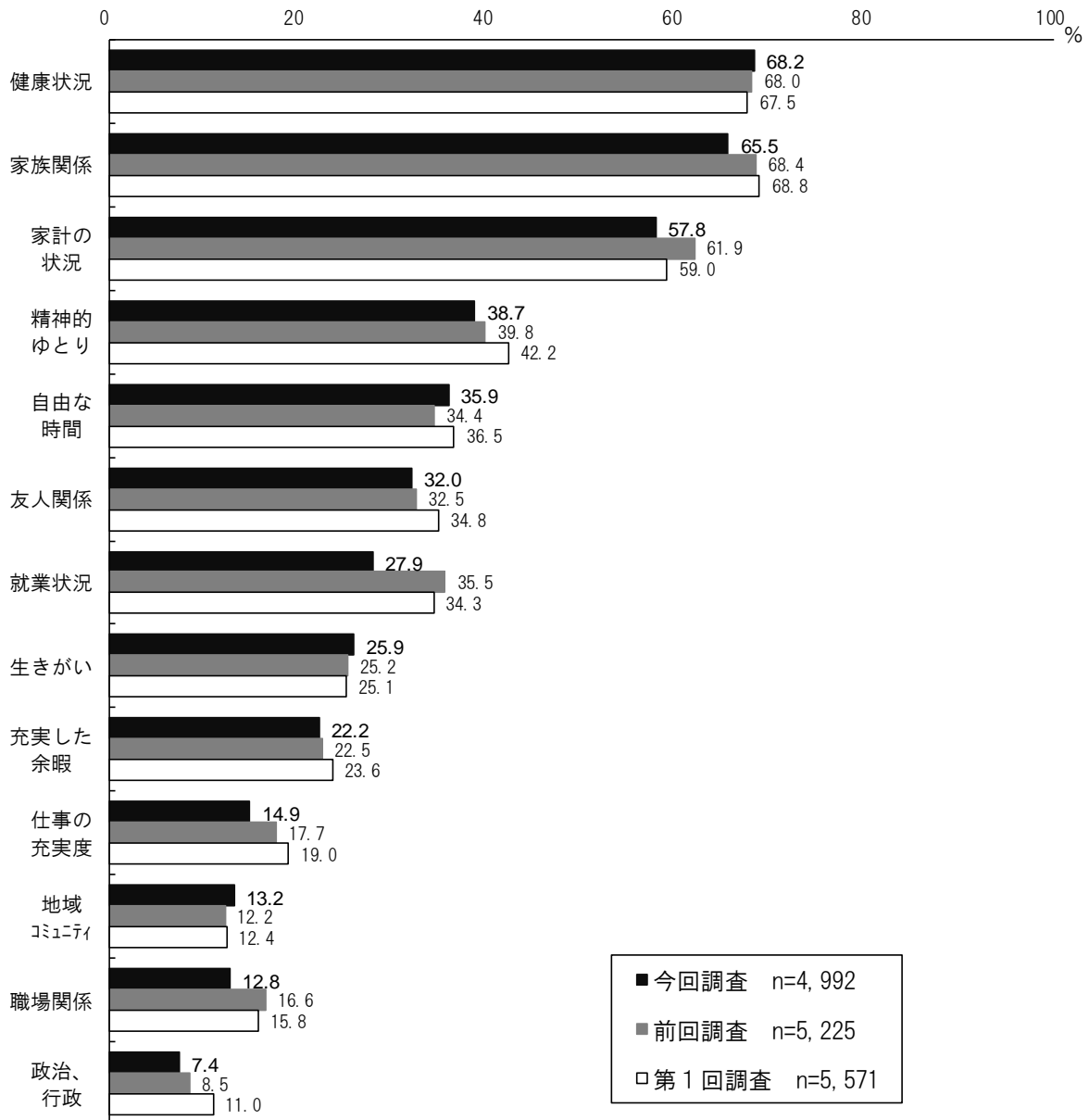
※第1回調査から継続して質問しています

幸福感を判断する際に重視した事項は、「健康状況」の割合が68.2%で最も高く、次いで「家族関係」(65.5%)、「家計の状況」(57.8%)となっています。

割合が最も高かった事項は、第4回調査と第5回調査では今回と同様に「健康状況」、それ以外の調査では「家族関係」となっています。

また、前回調査との比較では、「健康状況」が「家族関係」と入れ替わり、「就業状況」が高い方から数えて5番目から7番目に下がりました。

図表5 幸福感を判断する際に重視した事項[複数回答]



(3) 幸福感を高める手立て

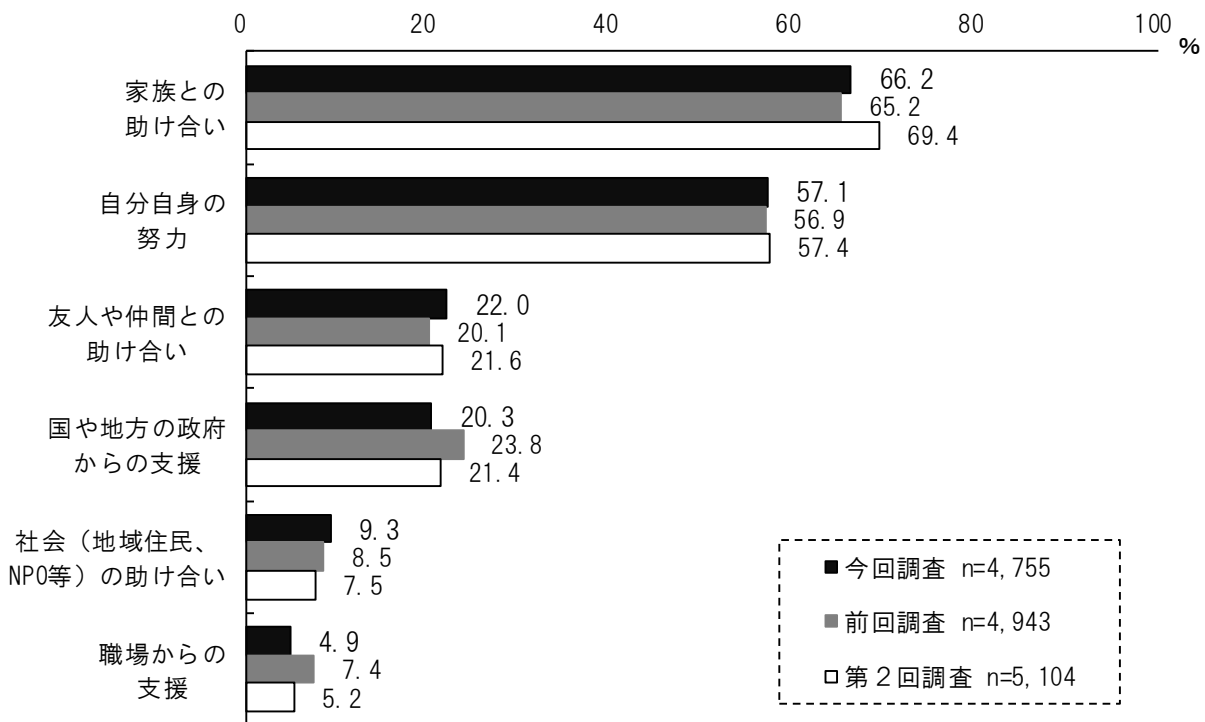
問1-3 あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

※第2回調査から継続して質問しています

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が 66.2%で最も高く、次いで、「自分自身の努力」(57.1%)、「友人や仲間との助け合い」(22.0%)となっています。

前回調査との比較では、「友人や仲間との助け合い」が 1.9 ポイント、「家族との助け合い」が 1.0 ポイント、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」が0.8 ポイント、「自分自身の努力」が0.2 ポイントそれぞれ高く、「国や地方の政府からの支援」が3.5 ポイント、「職場からの支援」が2.5 ポイントそれぞれ低くなっています。

図表6 幸福感を高める手立て[2つまでの複数回答]



## 2 地域や社会の状況についての実感

報告書 13~45 頁

「地域や社会の状況についての実感」は、「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した15の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

**問2** 地域や社会の状況について、あなたの実感をおききします。

次の(1)から(15)までの15の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害の危機への備えが進んでいると感じますか。
- (2) 必要な医療サービスを利用できていると感じますか。
- (3) 必要な福祉サービスを利用できていると感じますか。
- (4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
- (5) 身近な自然や環境が守られていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (6) 性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
- (8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
- (11) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
- (12) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
- (13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
- (15) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

○ 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1 感じる      2 どちらかといえば感じる

3 どちらかといえば感じない      4 感じない      9 わからない

※(5)(6)(8)(9)を除き、第1回調査から継続して質問しています

## ○『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感をおききしたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した『実感している層』の割合は、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」が85.5%で最も高くなっています。次いで「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(77.5%)、「(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(65.2%)の順で、これまでの8回の調査を通じて同順位となっています。

## ○『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した『実感していない層』の割合は「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が61.6%で、第1回調査以降、継続して最も高くなっています。次いで、「(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参加できている」(57.7%)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(57.5%)、となり、「(13)国内外に三重の魅力が発信され、交流が進んでいる」(53.6%)の順となっています。

## ○前回調査との比較

前回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは、15項目のうち8項目で、増加幅が大きかったのは「(2)必要な医療サービスを利用できている」(+6.4ポイント)、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(+4.5ポイント)、「(3)必要な福祉サービスを利用できている」(+3.9ポイント)、「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(+3.8ポイント)となっています。

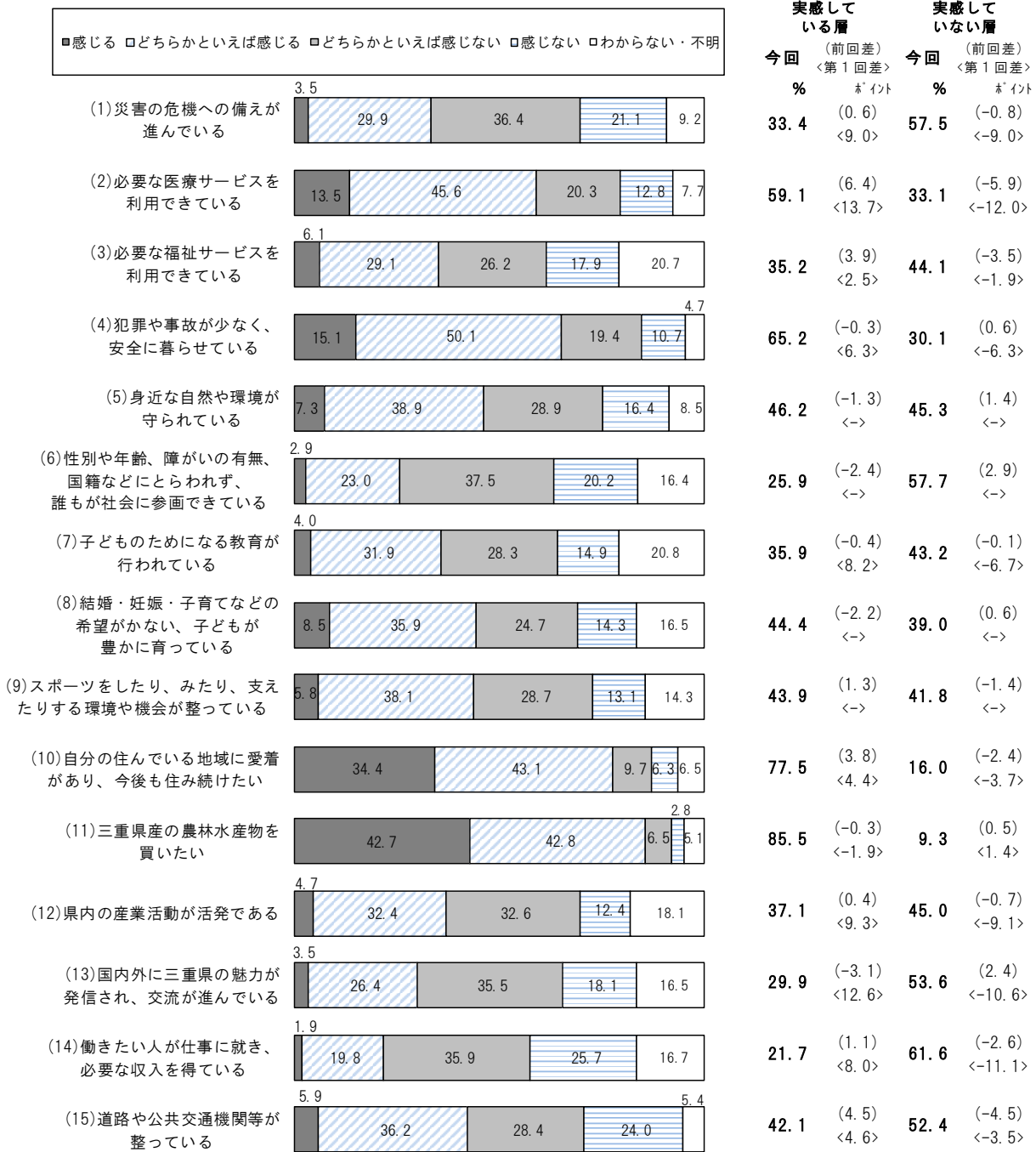
一方、『実感していない層』の割合が高くなったのは6項目で、主なものは「(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている」(+2.9ポイント)、「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+2.4ポイント)となっています。

## ○第1回調査との比較

第1回調査から質問内容を変えずに継続的におききしている11項目のうち、第1回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは10項目で、増加幅が最も大きかったのは「(2)必要な医療サービスを利用できている」(+13.7ポイント)、「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+12.6ポイント)、次いで「(12)県内の産業活動が活発である」(+9.3ポイント)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(+9.0ポイント)となっています。

一方、『実感していない層』の割合は、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」(+1.4ポイント)を除く10項目で第1回調査より低くなっています。

図表7 地域や社会の状況についての実感（一覧）



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計  
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計  
 ※割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出  
 ※第5回調査で質問を変更したものは、第1回調査と比較していない



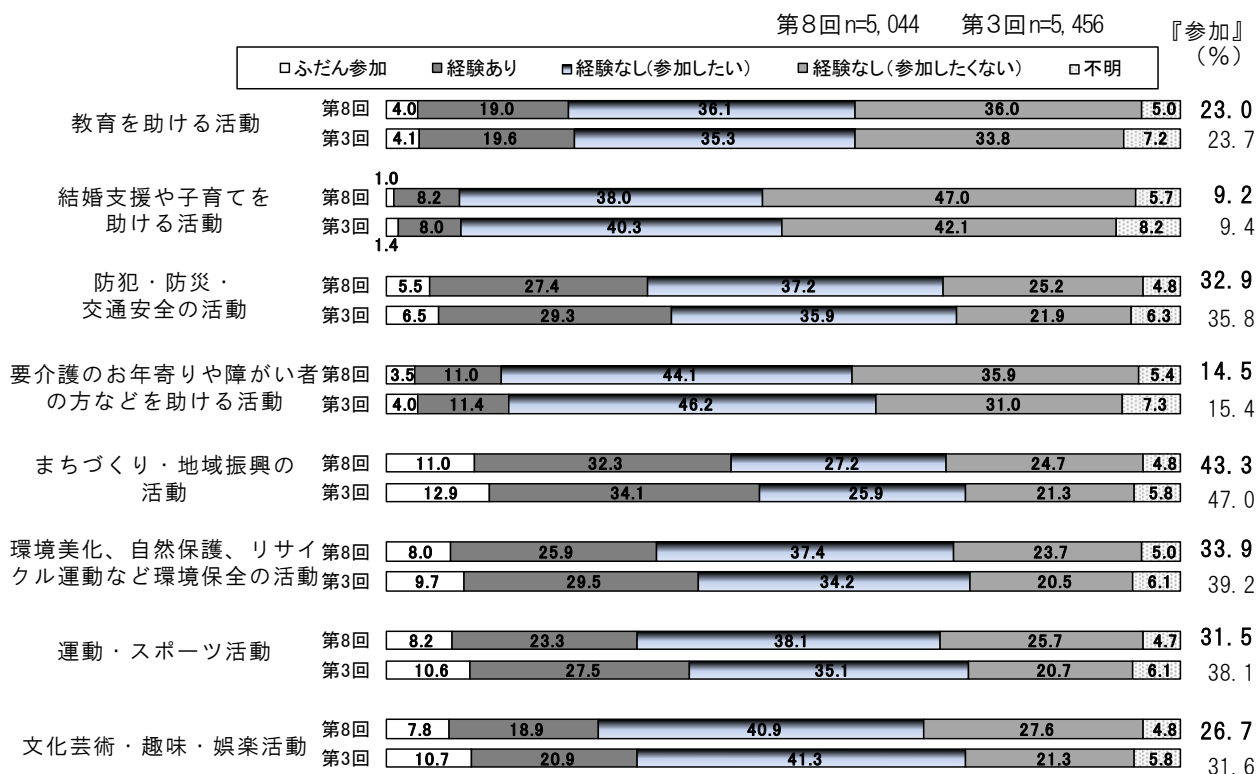
### 3 地域活動への参加状況と意欲

**問11** あなたは、今までに、自治会やボランティア、サークル、団体などで行う次のような活動に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。あてはまるものを1つずつ選んでください。(それぞれ1つ、合計8つ)

#### ▶ 地域活動への参加状況と意欲（8項目全体の集計結果）

- 「みえ県民力ビジョン」において推進してきた「協創」の取組について、意識の経年変化を確認するため、第2回、第3回の調査と同様に、自治会やボランティア、サークル、団体などで行う地域活動への参加状況と意欲について、8項目について質問しました。
- 「ふだん参加している」と「参加した経験がある」を合計した『参加』の割合は「まちづくり、地域振興の活動」が43.3%で最も高く、次いで「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」(33.9%)、「防犯・防災・交通安全の活動」(32.9%)となっています。
- 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」の割合は、「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」が44.1%で最も高く、次いで「文化芸術・趣味・娯楽活動」(40.9%)、「運動・スポーツ活動」(38.1%)となっています。
- 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」の割合は、「結婚支援や子育てを助ける活動」が47.0%で最も高く、次いで「教育を助ける活動」(36.0%)、「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」(35.9%)となっています。

図表8 地域活動への参加状況と意欲(今回と第3回との比較)



**問11** 「1 すでに参加している」、「2 参加した経験がある」を選んだ方は、こちらにお答えください。あなたがそれぞれの活動に参加した理由はどのようなものでしたか。それぞれ当てはまる番号をすべて選び、記入してください。

**問11** 「3 参加したことはないが、機会があれば参加したい」、「4 参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選んだ方は、それぞれの活動に不参加だった理由はどのようなものですか。それぞれ当てはまる番号をすべて選び、記入してください。

➤ 地域活動への『参加』理由

- 「参加するよう要請があったから」の割合が8項目中5項目で最も高く、「周囲の人に誘われたから」の割合が8項目中3項目で最も高くなっています。

➤ 地域活動の不参加理由（参加したことはないが、機会があれば参加したい）

- 「時間的な余裕がない」の割合が8項目中6項目で最も高く、「活動している団体の情報がない」の割合が8項目中2項目で最も高くなっています。

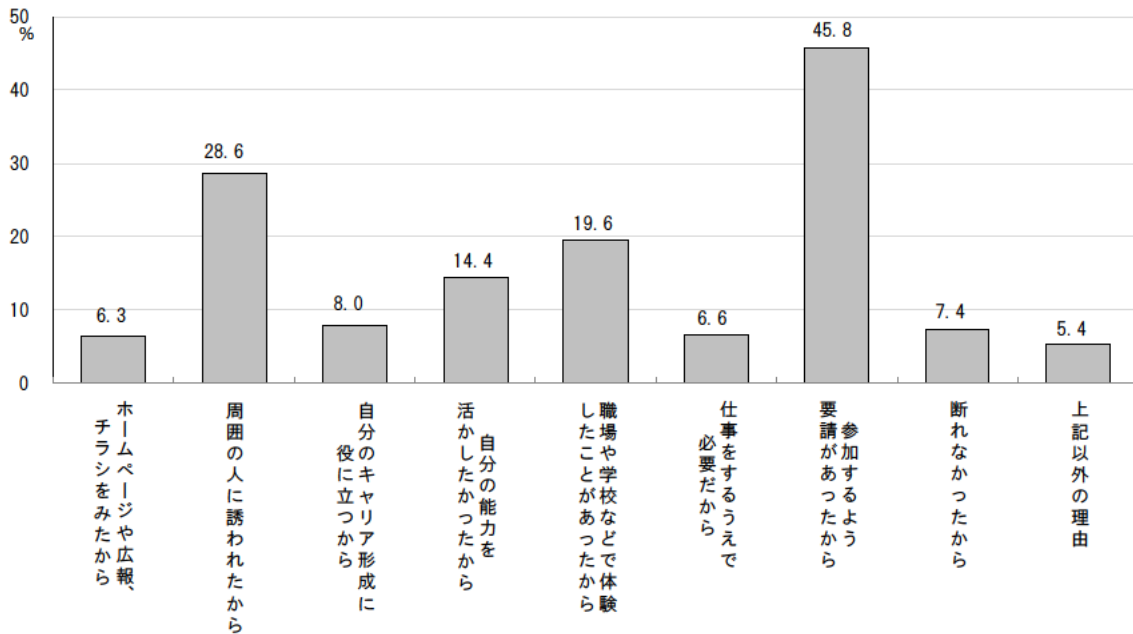
➤ 地域活動の不参加理由（参加したことはなく、参加したいとも思わない）

- 「時間的な余裕がない」の割合が8項目中5項目で最も高く、次いで「参加するのに必要な知識やノウハウがない」が2項目、「負担が大きそうだから」の割合が1項目でそれぞれ最も高くなっています。

➤ (1) - 1 教育を助ける活動（学校支援ボランティアを含む）への『参加』理由

○ 教育を助ける活動（学校支援ボランティアを含む）への『参加』理由としては、「参加するよう要請があったから」が45.8%と最も高く、次いで「周囲の人に誘われたから」(28.6%)、「職場や学校などで体験したことがあったから」(19.6%)となっています。

図表9 教育を助ける活動への『参加』理由

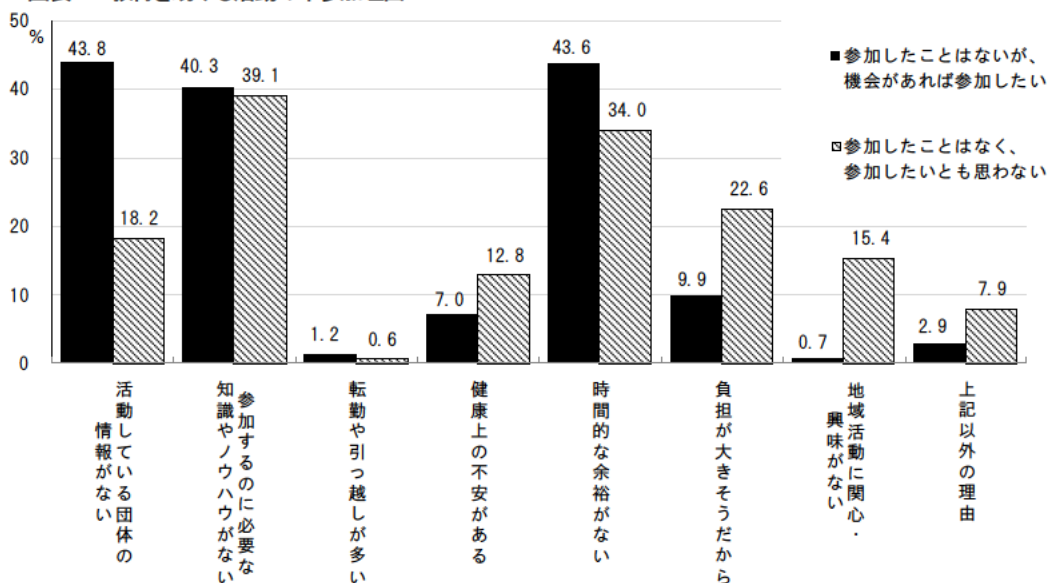


➤ (1) - 2 教育を助ける活動（学校支援ボランティアを含む）の不参加理由

○ 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した人の理由では、「活動している団体の情報がない」が43.8%と最も高く、次いで「時間的な余裕がない」(43.6%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(40.3%)となっています。

○ 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した人の理由では、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」が39.1%と最も高く、次いで「時間的な余裕がない」(34.0%)、「負担が大きそうだから」(22.6%)となっています。

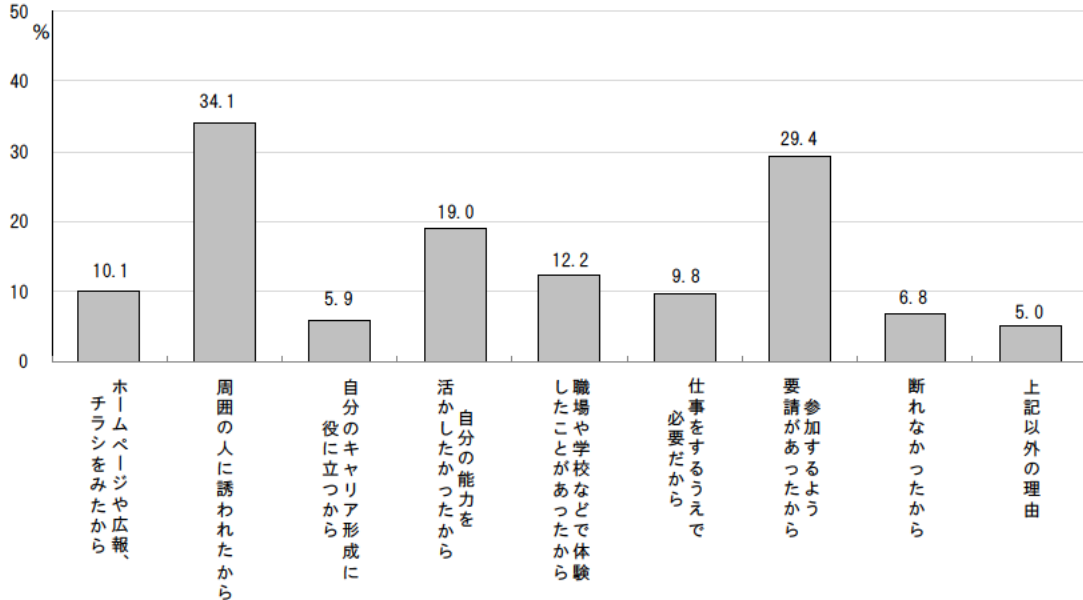
図表10 教育を助ける活動の不参加理由



➤ (2) - 1 結婚支援や子育てを助ける活動への『参加』理由

○ 結婚支援や子育てを助ける活動への『参加』理由としては、「周囲の人に誘われたから」が 34.1%と最も高く、次いで「参加するよう要請があったから」(29.4%)、「自分の能力を活かしたかったから」(19.0%)となっています。

図表 11 結婚支援や子育てを助ける活動への『参加』理由

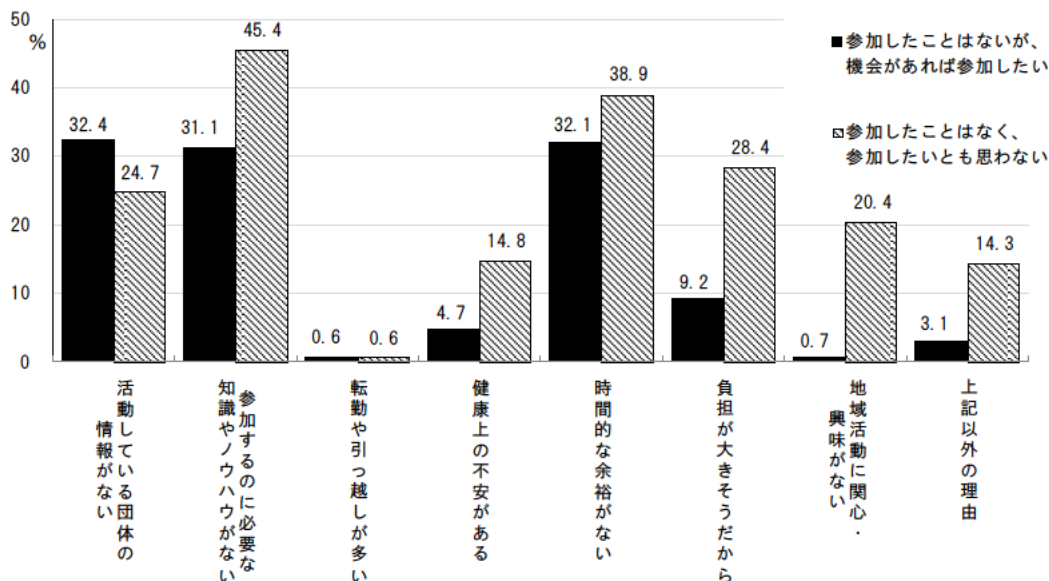


➤ (2) - 2 結婚支援や子育てを助ける活動の不参加理由

○ 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した人の理由では、「活動している団体の情報がない」が 32.4%と最も高く、次いで「時間的な余裕がない」(32.1%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(31.1%)となっています。

○ 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した人の理由では、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」が 45.4%と最も高く、次いで「時間的な余裕がない」(38.9%)、「負担が大きそうだから」(28.4%)となっています。

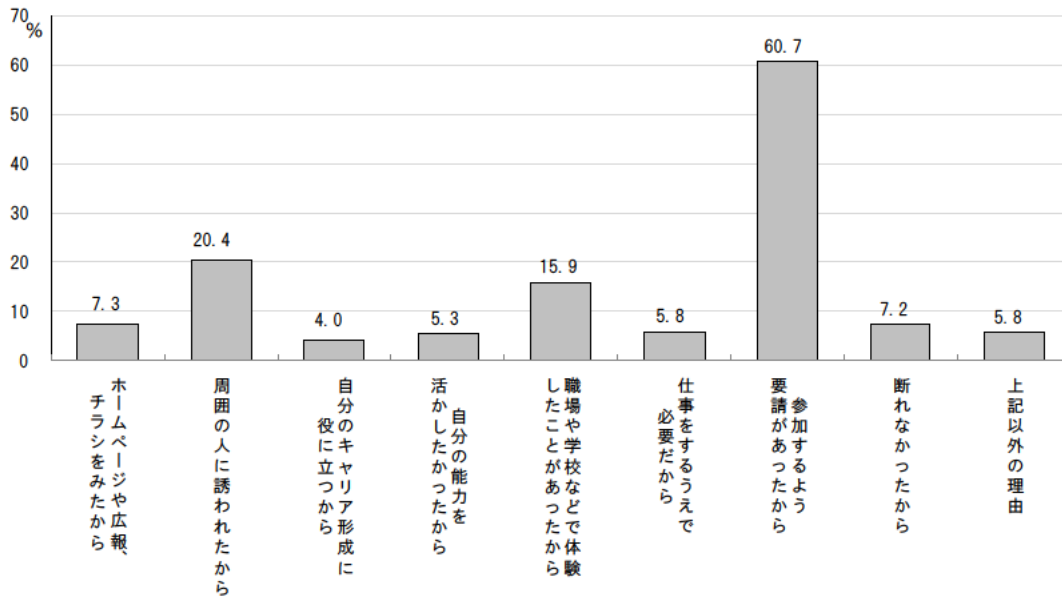
図表 12 結婚支援や子育てを助ける活動の不参加理由



➤ (3) - 1 防犯・防災・交通安全の活動への『参加』理由

- 防犯・防災・交通安全の活動への『参加』理由としては、「参加するよう要請があったから」が60.7%と最も高く、次いで「周囲の人に誘われたから」(20.4%)、「職場や学校などで体験したことがあったから」(15.9%)となっています。

図表13 防犯・防災・交通安全の活動への『参加』理由

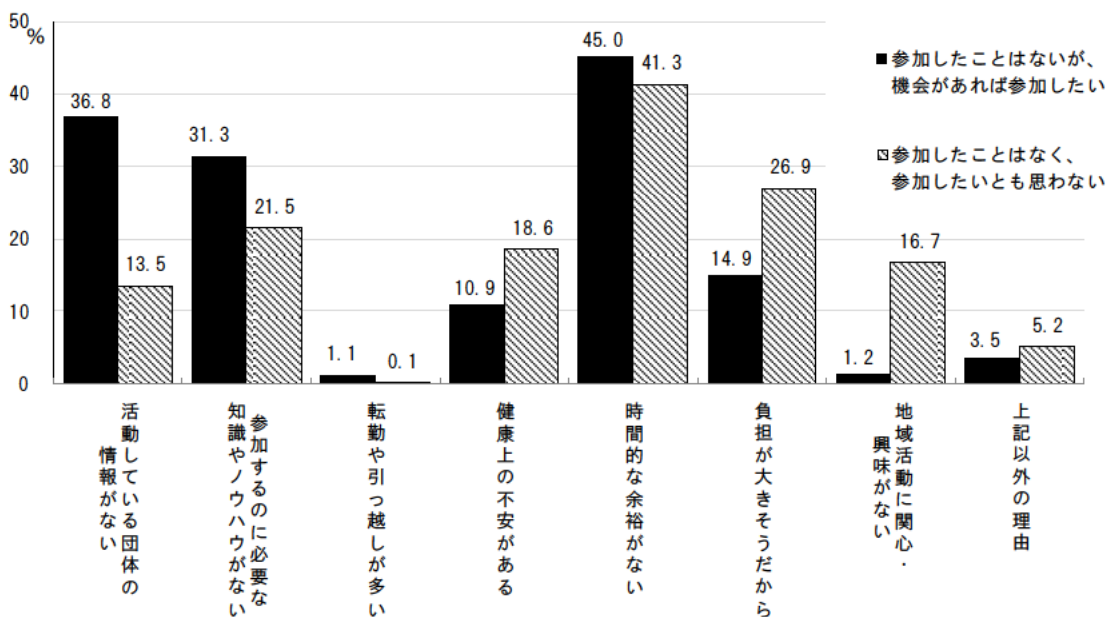


➤ (3) - 2 防犯・防災・交通安全の活動の不参加理由

- 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が45.0%と最も高く、次いで「活動している団体の情報がない」(36.8%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(31.3%)となっています。

- 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が41.3%と最も高く、次いで「負担が大きそうだから」(26.9%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(21.5%)となっています。

図表14 防犯・防災・交通安全の活動の不参加理由

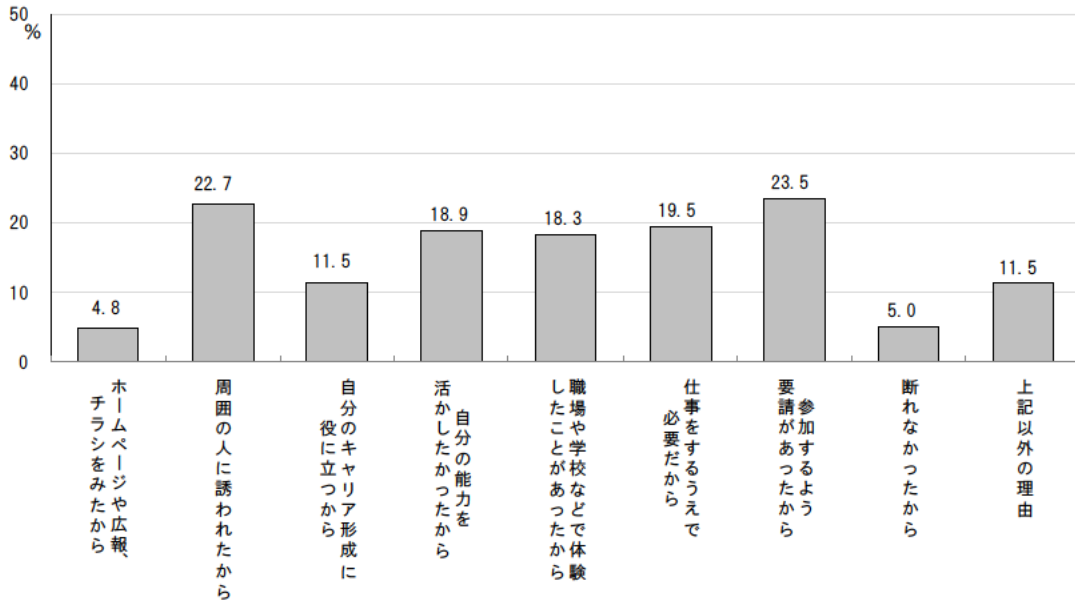




➤ (4) - 1 要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動への『参加』理由

○ 要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動への『参加』理由としては、「参加するよう要請があったから」が23.5%と最も高く、次いで「周囲の人に誘われたから」(22.7%)、「仕事をするうえで必要だから」(19.5%)となっています。

図表 15 要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動への『参加』理由

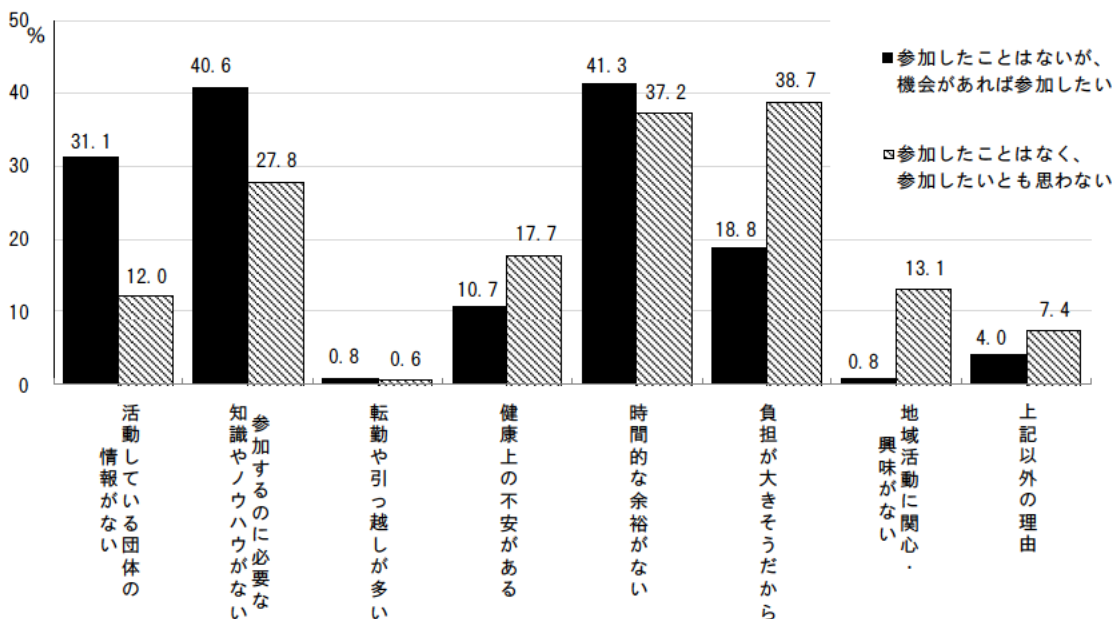


➤ (4) - 2 要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動の不参加理由

○ 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が41.3%と最も高く、次いで「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(40.6%)、「活動している団体の情報がない」(31.1%)となっています。

○ 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した方の理由では、「負担が大きそうだから」が38.7%と最も高く、次いで「時間的な余裕がない」(37.2%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(27.8%)となっています。

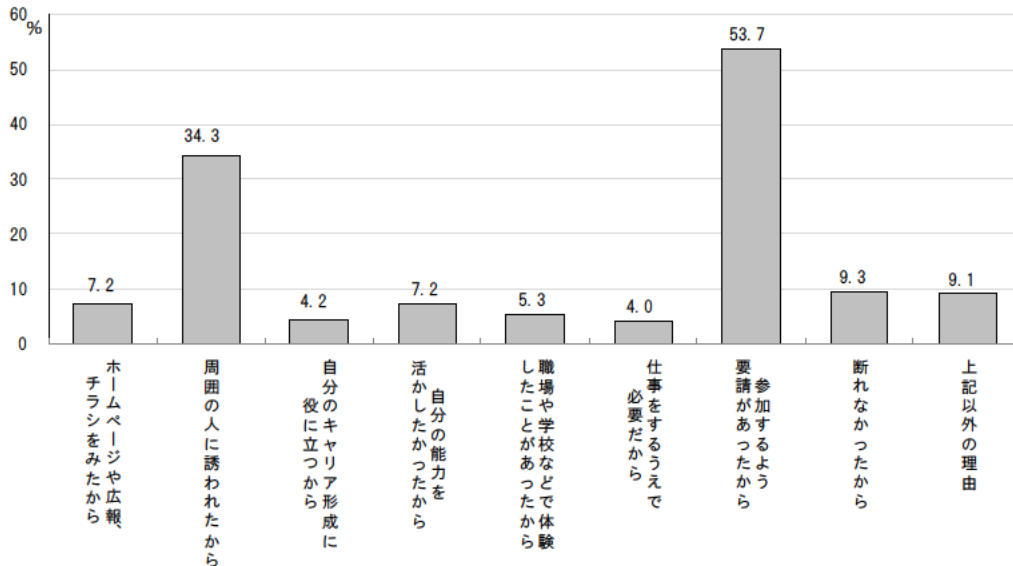
図表 16 要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動の不参加理由



➤ (5) - 1 まちづくり、地域振興の活動（祭りや地域の行事を含む）への『参加』理由

○ まちづくり、地域振興の活動（祭りや地域の行事を含む）への『参加』理由としては、「参加するよう要請があったから」が 53.7%と最も高く、次いで「周囲の人に誘われたから」（34.3%）、「断れなかったから」（9.3%）となっています。

図表 17 まちづくり、地域振興の活動(祭りや地域の行事を含む)への『参加』理由

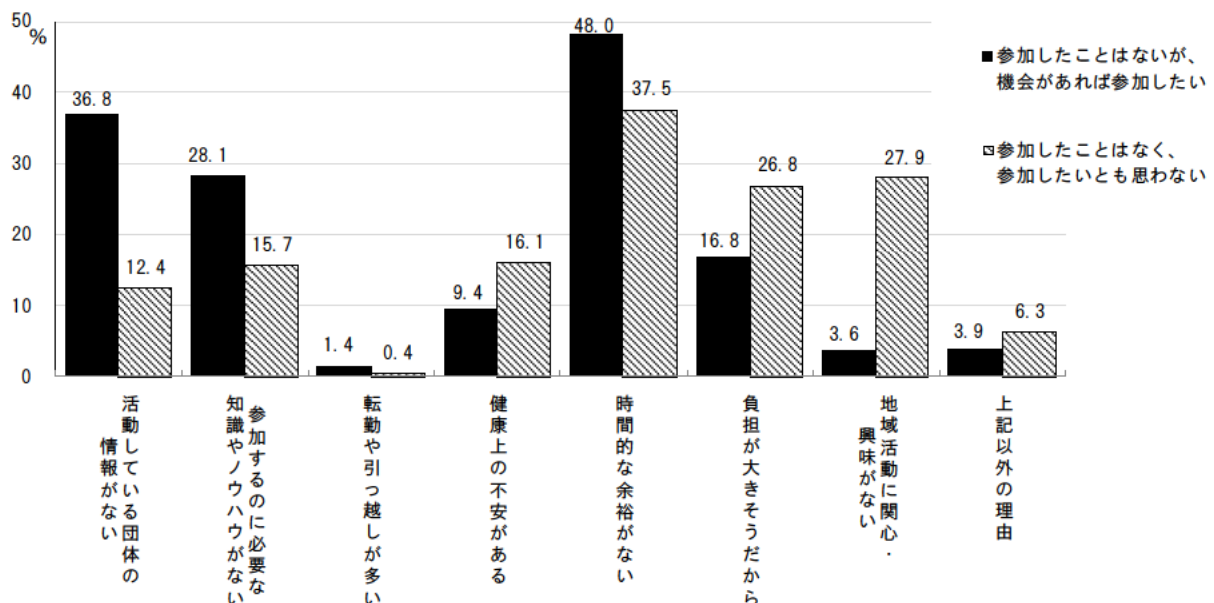


➤ (5) - 2 まちづくり、地域振興の活動（祭りや地域の行事を含む）の不参加理由

○ 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が 48.0%と最も高く、次いで「活動している団体の情報がない」（36.8%）、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」（28.1%）となっています。

○ 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が 37.5%と最も高く、次いで「地域活動に関心・興味がない」（27.9%）、「負担が大きそうだから」（26.8%）となっています。

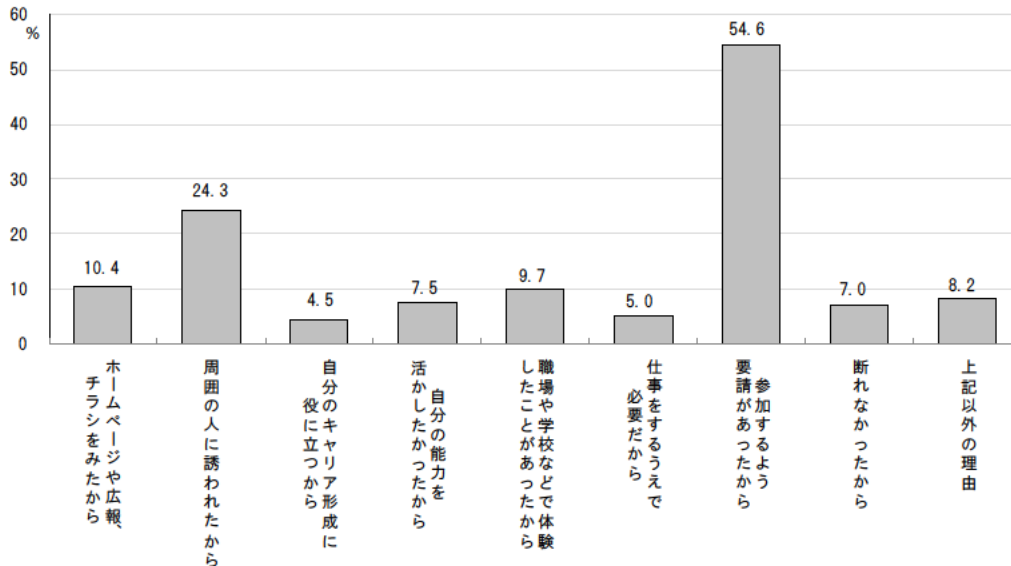
図表 18 まちづくり、地域振興の活動(祭りや地域の行事を含む)の不参加理由



➤ (6) - 1 環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動への『参加』理由

○ 環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動への『参加』理由としては、「参加するよう要請があったから」が 54.6%と最も高く、次いで「周囲の人に誘われたから」(24.3%)、「ホームページや広報、チラシをみたから」(10.4%)となっています。

図表 19 環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動への『参加』理由

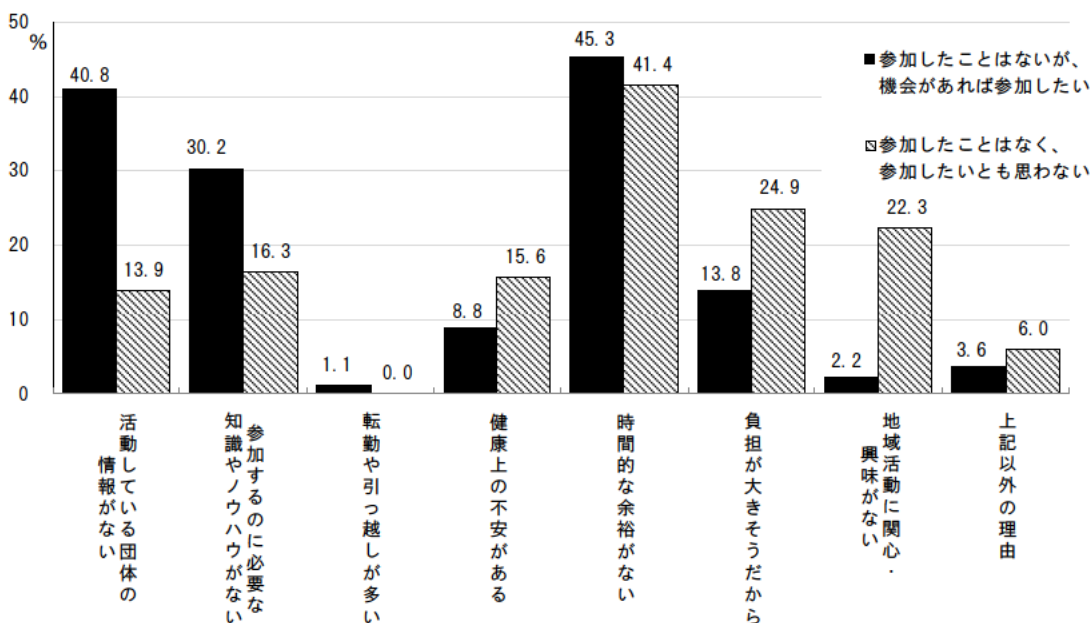


➤ (6) - 2 環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動の不参加理由

○ 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が 45.3%と最も高く、次いで「活動している団体の情報がない」(40.8%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(30.2%)となっています。

○ 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が 41.4%と最も高く、次いで「負担が大きそうだから」(24.9%)、「地域活動に関心・興味がない」(22.3%)となっています。

図表 20 環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動の不参加理由

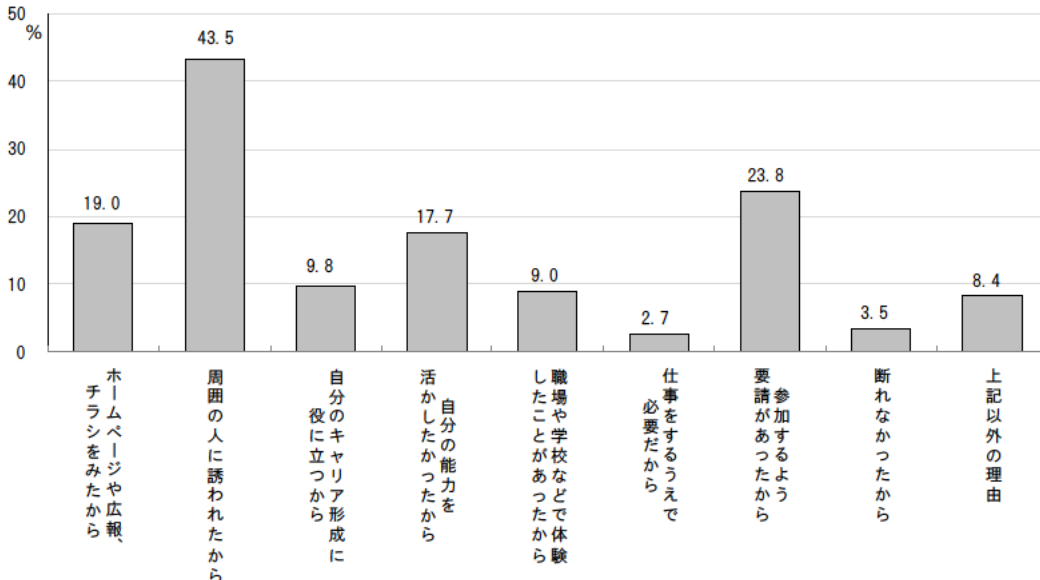




➤ (7) - 1 運動・スポーツ活動（健康づくりのための活動を含む）への『参加』理由

○ 運動・スポーツ活動（健康づくりのための活動を含む）への『参加』理由としては、「周囲の人に誘われたから」が43.5%と最も高く、次いで「参加するよう要請があったから」（23.8%）、「ホームページや広報、チラシをみたから」（19.0%）となっています。

図表21 運動・スポーツ活動への『参加』理由

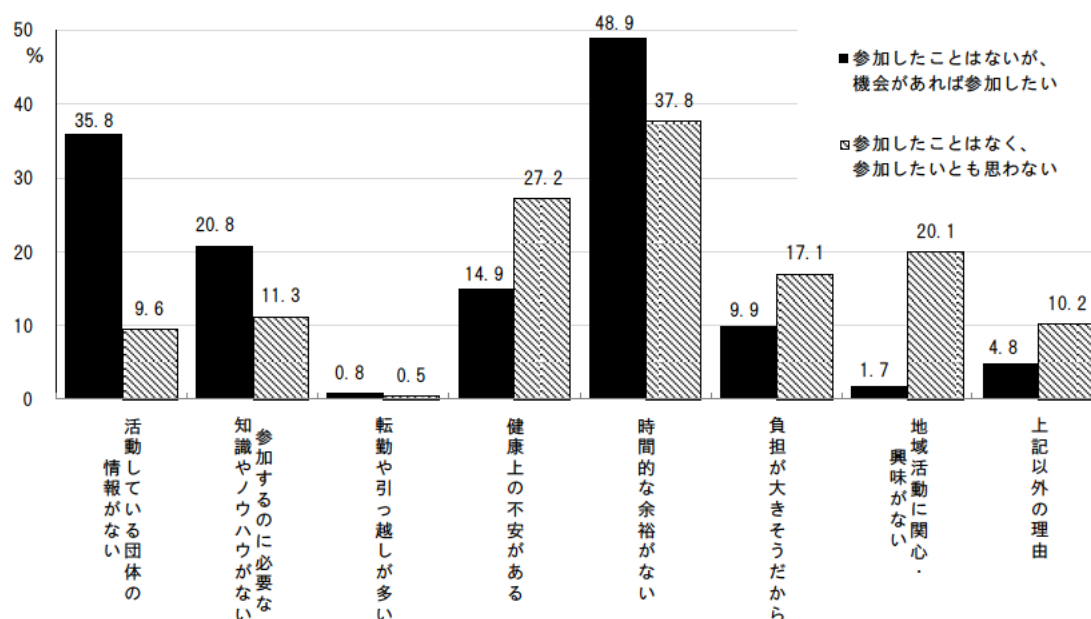


➤ (7) - 2 運動・スポーツ活動（健康づくりのための活動を含む）の不参加理由

○ 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が48.9%と最も高く、次いで「活動している団体の情報がない」（35.8%）、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」（20.8%）となっています。

○ 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が37.8%と最も高く、次いで「健康上の不安がある」（27.2%）、「地域活動に関心・興味がない」（20.1%）となっています。

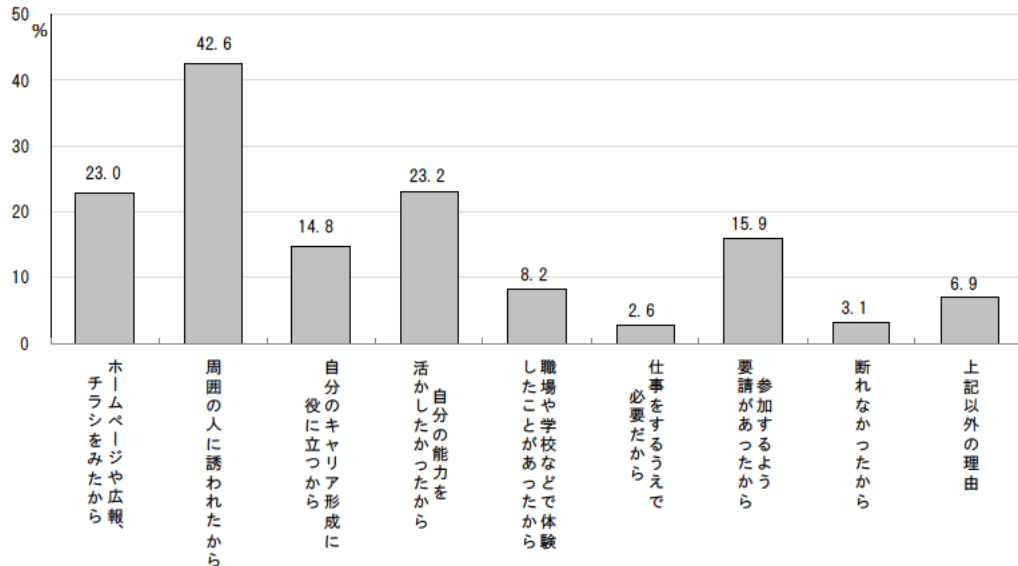
図表22 運動・スポーツ活動の不参加理由



(8) - 1 文化芸術・趣味・娯楽活動（団体やサークルに所属する人たちの楽しみや研さんなどが目的の活動）への『参加』理由

- 文化芸術・趣味・娯楽活動（団体やサークルに所属する人たちの楽しみや研さんなどが目的の活動）への参加理由としては、「周囲の人に誘われたから」が42.6%と最も高く、次いで「自分の能力を活かしたかったから」(23.2%)、「ホームページや広報、チラシをみたから」(23.0%)となっています。

図表 23 文化芸術・趣味・娯楽活動への『参加』理由

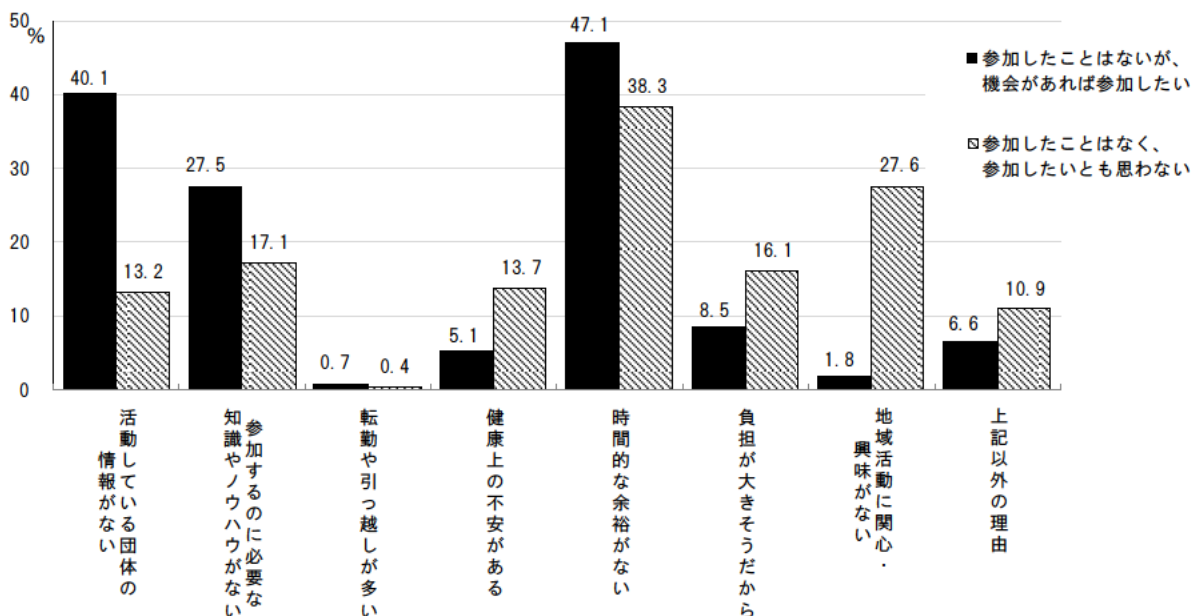


➤ (8) - 2 文化芸術・趣味・娯楽活動（団体やサークルに所属する人たちの楽しみや研さんなどが目的の活動）の不参加理由

- 「参加したことはないが、機会があれば参加したい」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が47.1%と最も高く、次いで「活動している団体の情報がない」(40.1%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(27.5%)となっています。

- 「参加したことはなく、参加したいとも思わない」を選択した方の理由では、「時間的な余裕がない」が38.3%と最も高く、次いで「地域活動に関心・興味がない」(27.6%)、「参加するのに必要な知識やノウハウがない」(17.1%)となっています。

図表 24 文化芸術・趣味・娯楽活動の不参加理由



## 4 ご家族に関すること

報告書 85～87 頁

### (1) 結婚に対する考え方

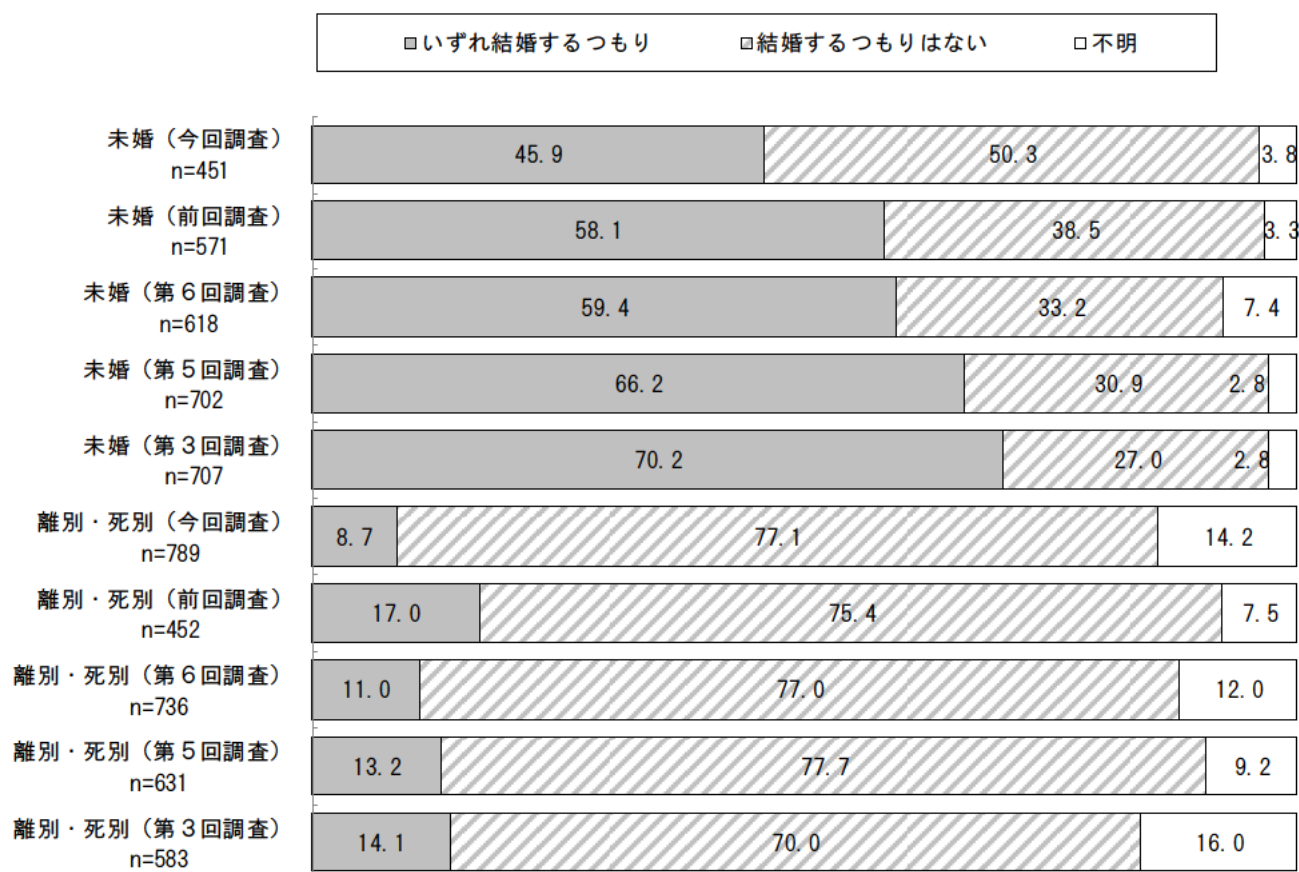
**問13** 今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

※第3回、第5～7回、今回調査で質問しています

未婚の方または離別・死別した方に対して、結婚に対する考え方を質問したところ、未婚は「いずれ結婚するつもり」が45.9%、「結婚するつもりはない」が50.3%となっています。離別・死別は「いずれ結婚するつもり」が8.7%、「結婚するつもりはない」が77.1%となっています。

未婚の「いずれ結婚するつもり」が第3回調査以降低くなっています。

図表25 結婚に対する考え方



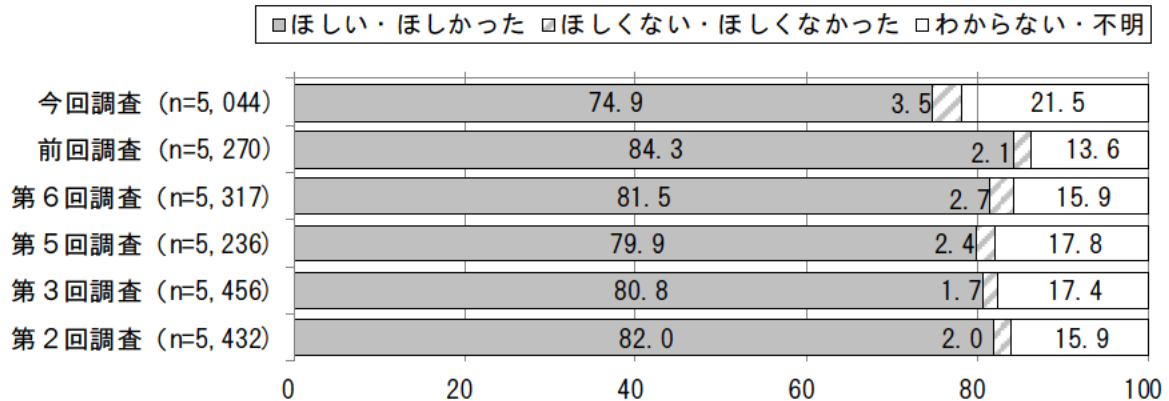
(2) 子どもを希望する割合

問14 あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいはほしかったですか。

※第2回、第3回、第5回～7回、今回調査で質問しています。

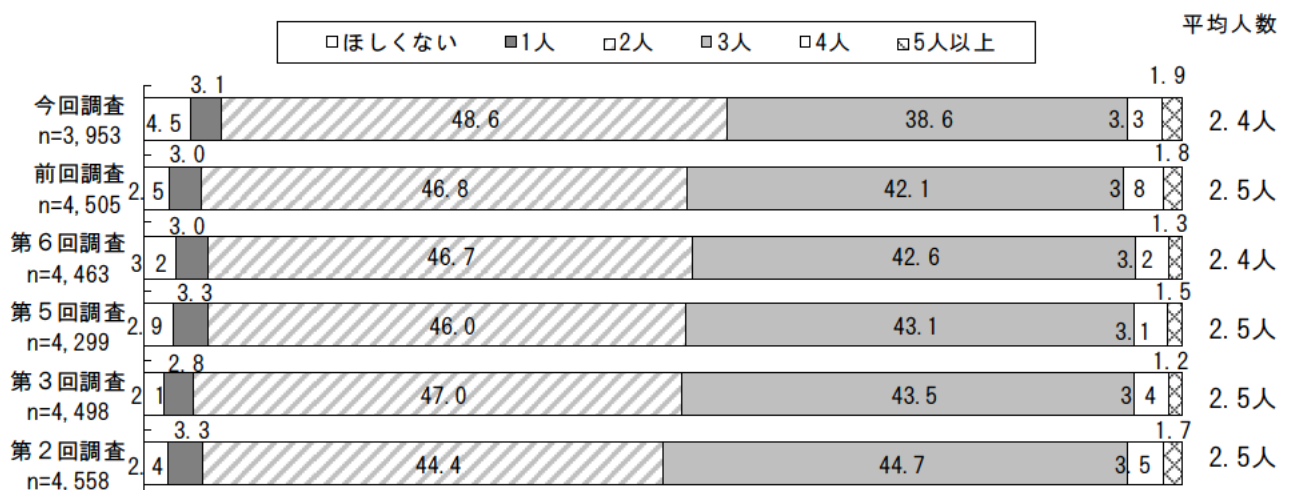
子どもの希望を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は 74.9%で、前回調査より 9.4 ポイント低くなっています。

図表 26 子どもを希望する割合



理想の子どもの数について、「2人」の割合が 48.6%で最も高く、次いで「3人」(38.6%)と なっています。前回調査と比較すると「0人(ほしくない)」、「2人」の割合は高くなっています。理想の子どもの数の平均は 2.4 人で、前回調査より 0.1 人少なくなっています。

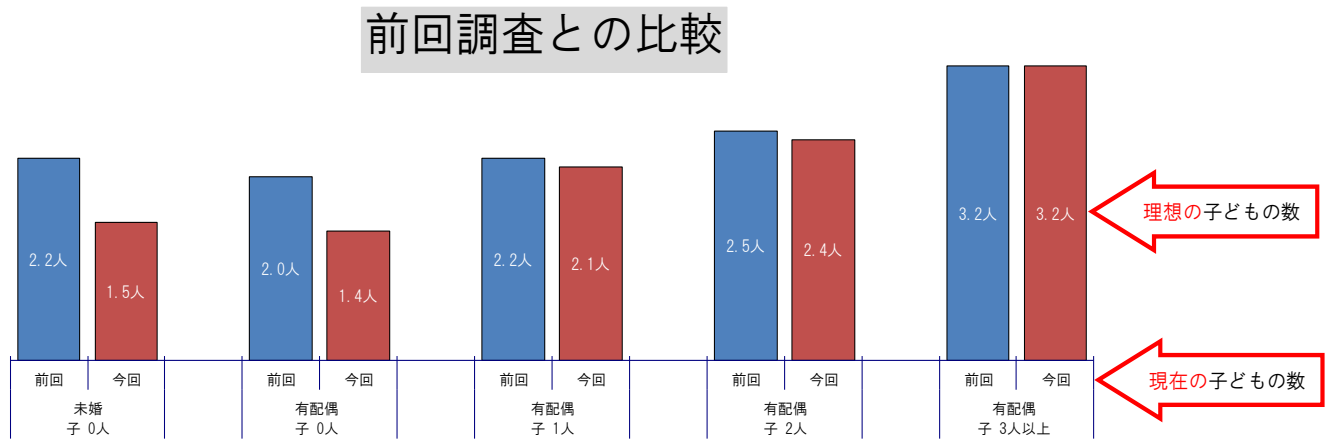
図表 27 理想の子どもの数



### (3) 子どもの数の理想と現実のギャップ (参考集計)

- 20 歳代～40 歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層は 1.5 人、有配偶で子どもがいない層は 1.4 人、有配偶で子ども 1 人の層は 2.1 人、有配偶で子ども 2 人の層は 2.4 人、有配偶で子ども 3 人以上の層は 3.2 人で、実際の子どもの数は理想の数より少なく、前回調査と同様の結果となっています。
- 前回調査と比べると、理想の子どもの数は、有配偶で子ども 3 人以上の層では同じでしたが、未婚で子どもがいない層で 0.7 人、有配偶で子どもがいない層で 0.6 人、有配偶で子ども 1 人、有配偶で子ども 2 人の層で、それぞれ 0.1 人ずつ減少しています。

図表 28 理想の子どもの数



- 全体では理想の子どもの数は 2.4 人、実際の子供の数は、1.8 人となっています。

(※以下、( ) 内は、実際の子供の数です。)

地域別では中南勢地域で 2.3 人 (1.7 人) と最も少なく、東紀州地域では 2.6 人 (1.9 人) と最も多くなっています。

職業別では学生で 1.8 人と最も少なく、農林水産業では 2.7 人 (2.2 人) と最も多くなっています。

未婚の人では 1.5 人と最も少なく、有配偶では 2.5 人 (2.0 人) と最も多くなっています。

単独世帯では 2.2 人 (1.2 人)、三世帯世帯では 2.6 人 (2.1 人) と世代の多い世帯ほど多くなっています。

収入別では 100 万円未満で 2.2 人 (1.6 人) と最も少なく、1,000 万円以上で 2.6 人 (2.1 人) と最も多くなっています。

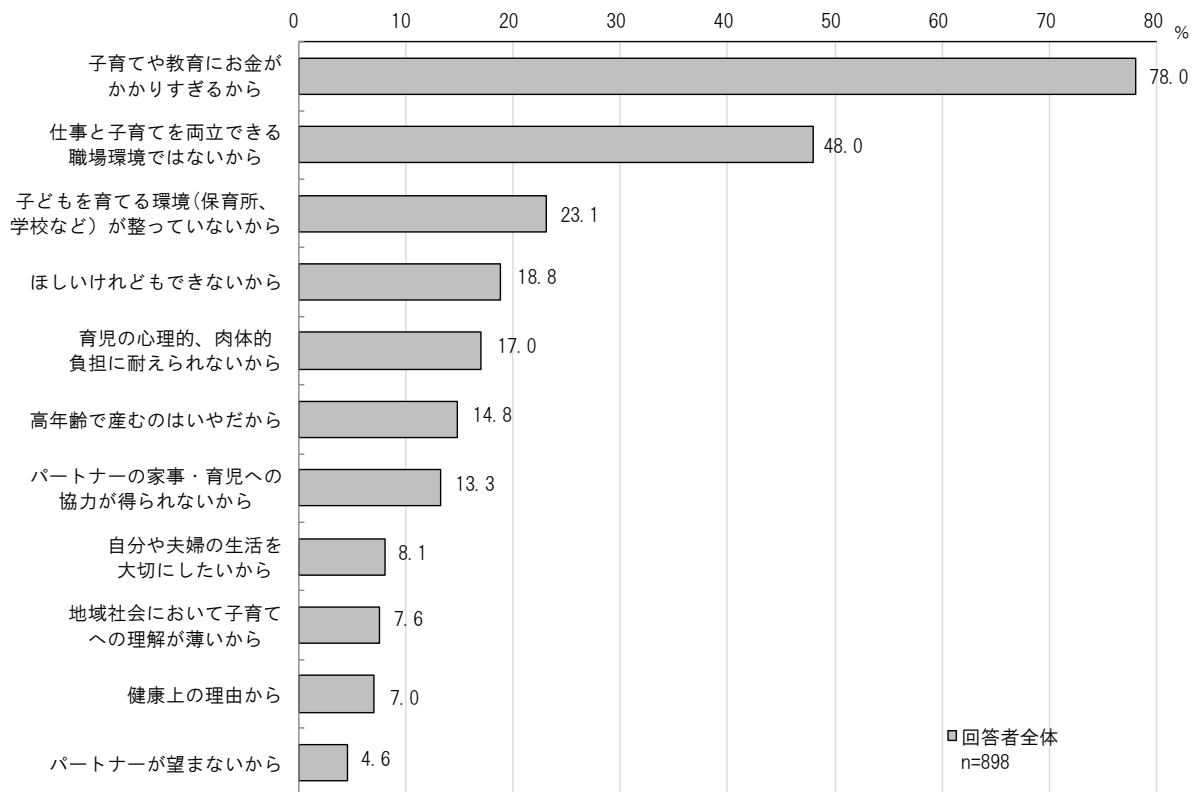
(4) 理想と現実の子どもの数のギャップの理由 (18 歳未満の子育て中の方)

**問17** これまでの県の調査では、実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ないという結果が出ています。この理由について、あなた自身のこととして考えた場合、あてはまるものをすべて選んでください。

※新規の質問です

18 歳未満の子どもを育てている方、または、今後子どもをほしいとお考えの方に質問したところ、実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が 78.0%と最も高く、次いで「仕事と子育てを両立できる職場環境ではないから」(48.0%)、「子どもを育てる環境(保育所、学校など)が整っていないから」(23.1%)の順となっています。

図表 29 子ども数のギャップの理由(複数回答)



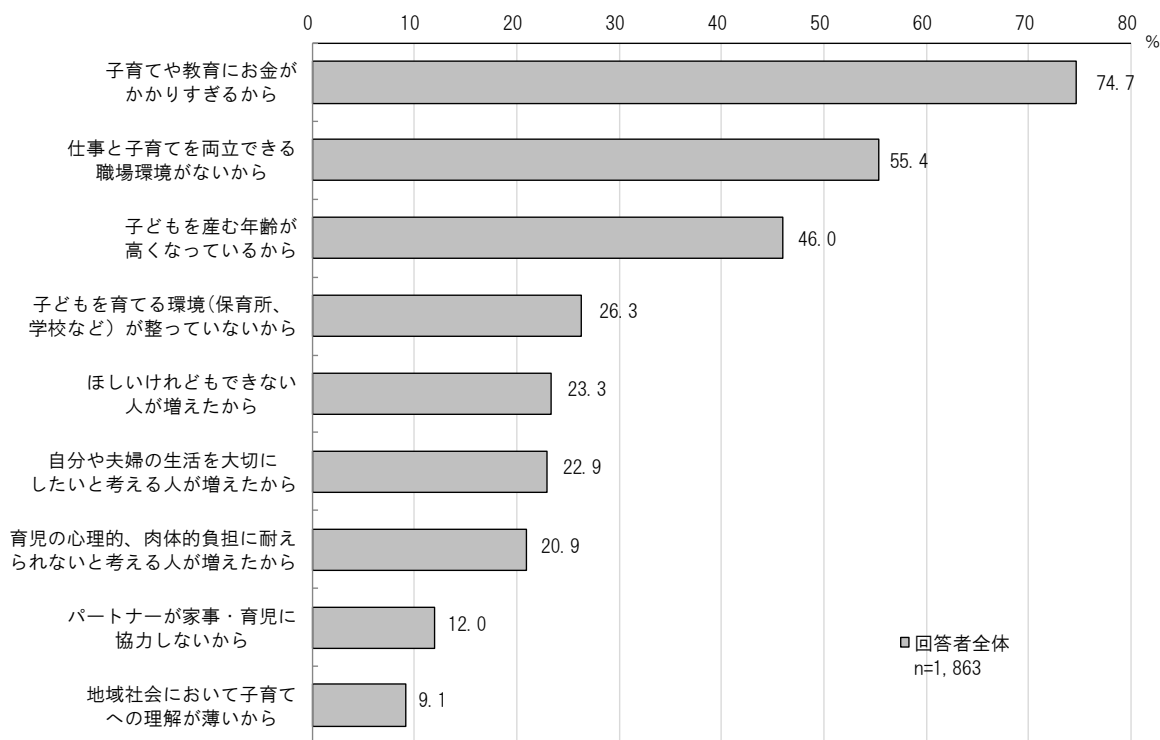
(5) 理想と現実の子どもの数のギャップの理由 ((4) 以外の方)

**問18** これまでの県の調査では、実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ないという結果が出ています。この理由として考えられることとして、あてはまるものをすべて選んでください。

※新規の質問です

18歳未満の子どもを育てている方、または、今後子どもをほしいとお考えの方以外の方に質問したところ、実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が74.7%と最も高く、次いで「仕事と子育てを両立できる職場環境がないから」(55.4%)、「子どもを産む年齢が高くなっているから」(46.0%)の順となっています。

図表30 子ども数のギャップの理由(子育て世代以外)(複数回答)





## 5 人とのつながり

**問19** あなたは安心感のある暮らしを送るために必要な「人とのつながり」とはどのようなものだと思いますか。

第二次行動計画では、「経済的な豊かさ」、「精神的な豊かさ」、「社会のシステムやつながりの豊かさ」の3つの豊かさをすべて高めていくことで享受できる豊かさを「新しい豊かさ」として提示しています。

3つの豊かさのうち、「社会のシステムやつながりの豊かさ」に関して、第5回調査に引き続き、安心感のある暮らしを送るために、どのような「人とのつながり」が必要か、質問しました。

- 「近所づきあい」が66.4%と最も高く、次いで「町内会・自治会などの地縁組織」(38.7%)、「職場」(28.4%)の順となっています。
- 第5回調査の割合と比較すると、「近所づきあい」(66.4%)は4.5ポイントの増、「趣味のサークルなど」(21.3%)は2.4ポイントの増、「学校(同窓会も含む)」(9.6%)が0.6ポイントの増となっています。「職場」28.4%は2.9ポイントの減となっています。

図表31 人とのつながり

